

沿 革

- 昭和 3 年 4 月 明治43年に開設されていた筑紫郡堅粕町立屠場が合併により福岡市立屠場となる。
- 32 年 2 月 福岡市中央卸売市場業務条例制定。
- 32 年 10 月 福岡市東区箱崎7丁目に食肉市場起工。
- 33 年 11 月 食肉市場設置認可。
- 34 年 4 月 福岡市立と畜場条例制定。
- 34 年 7 月 福岡食肉市場株式会社創立。
- 34 年 9 月 福岡市中央卸売市場食肉市場開設、業務開始。
- 34 年 9 月 福岡食肉市場売買参加者組合設立。(50年10月法人化「福岡食肉買参事業協同組合」となる)
- 38 年 4 月 場内に食肉衛生検査所設置。
- 46 年 4 月 卸売市場法公布。(施行日7月1日)
- 平成 5 年 12 月 新食肉市場整備基本構想検討案作成。
- 6 年 12 月 新食肉市場整備事業化検討報告書作成。
- 8 年 3 月 新食肉市場整備基本計画書作成。
- 8 年 3 月 国の「第6次中央卸売市場整備計画」において移転新設整備の事業採択。
- 9 年 12 月 新食肉市場建設に係る都市計画決定、都市計画上の名称を「臨海市場」と定める。
- 10 年 9 月 新食肉市場現地着工。
- 12 年 3 月 臨海市場竣工。
- 12 年 3 月 福岡市立と畜場条例廃止。
- 12 年 4 月 臨海市場開場。
- 12 年 4 月 福岡食肉市場(株)がと畜場設置者となる。
- 12 年 10 月 福岡食肉市場(株)がISO9002認証取得。
- 13 年 4 月 輸入部分肉のインターネット取引を開始する。
- 13 年 9 月 日本で初めてBSE感染牛を確認
- 13 年 10 月 福岡食肉市場(株)がISO9001認証 移行取得。
- 14 年 3 月 BSE対策(特定危険部位等専用保管冷蔵庫、脊髓吸引装置等の導入)
- 15 年 2 月 BSE対策(牛頭蓋破碎装置の導入)
- 17 年 4 月 臨海市場特別会計を中央卸売市場特別会計に統合
- 17 年 5 月 福岡市中央卸売市場業務条例及び同施行規則の一部改正
- 19 年 5 月 市場の名称を「臨海市場」から「食肉市場」に変更
- 21 年 6 月 食肉市場機能高度化事業の一環として、福岡食肉流通センターが供用開始

食 肉 市 場 に つ い て

福岡市中央卸売市場食肉市場は、平成12年4月に福岡市東区箱崎七丁目から福岡市東区東浜二丁目に新築移転し、名称も「食肉市場」から「臨海市場」に変更して開場いたしましたが、臨海市場は近隣の環境局臨海工場や鮮魚市場と混同されていたことから、平成19年5月に「食肉市場」へ戻しました。

当市場は、常に公正公明な市場取引を行いながら、消費者・生産者・買参者の満足を第一に考えること、衛生管理の徹底と品質システムの向上に努めること、衛生的で安全・安心な食肉を安定的に供給することを品質方針として食肉市場の機能を十分に果たしています。更に最先端情報システム並びに最高水準の衛生管理体制の部分肉加工機能を完備する食肉市場となっています。

食 肉 市 場 の 特 徴

1. 世界レベルの品質保証 ISO認証の取得

食肉市場としては、日本初のISO認証(品質の管理・保証に関する国際規格)を取得し、世界レベルの品質保証が実現され、消費者の皆様方が安心して安全で高品質な食肉を購入することができます。

2. 最高水準の衛生管理 HACCPシステムの導入

最新のワンフロア・ワンウェイの製造ラインで生体搬入から製品出荷までトータルにHACCP(危害分析重要管理点)システムで管理することにより、安全で衛生的な良質の食肉を提供します。

3. 一大情報受発信基地 最先端情報システムを完備

生体搬入から製品搬出までの市場内情報を一元化。

120インチマルチTV映像機付きセリ機の導入やインターネットによる情報の受発信及び市場取引の推進を目指し、リアルタイムに情報を提供いたします。

4. 環境にやさしい施設 周辺環境との調和をテーマ

周辺に緑地を配し、防音・防臭・防塵対策の徹底や未利用エネルギーである液化天然ガスLNG冷熱を利用するなど、クリーンで環境にやさしい施設です。

5. 市民に開かれた施設 市民参加型のスペース

コミュニティーホールでは、生産施設や食肉加工の説明・紹介を行い、安全で衛生的な食肉生産を理解していただきます。また、実際に食肉製造の過程を知ってもらえるように、見学者用通路を設置しています。この市場見学をつうじて、食肉と食肉市場の理解を深めていただきます。

市 場 の 概 況

I 生体の処理(と畜)状況

平成23年度のと畜数(成牛、豚、子牛)は、154,475頭で前年度に比べ7,886頭(5.4%)の増であった。

成牛・豚については、次のとおりである。

1. 成 牛

成牛のと畜頭数は、23年度全体では20,479頭で、前年度と比べて1,853頭(9.9%)の増であった。

出荷地別では、地元の福岡県が、5,450頭(構成比26.6%)、次いで佐賀県 4,668頭(同22.8%)、鹿児島県 1,996頭(同9.7%)、大分県 1,960頭(同9.6%)、長崎県 1,898頭(同9.3%)、宮崎県 1,712頭(同8.4%)、熊本県 1,375頭(同6.6%)、山口県 811頭(同4.0%)の順である。

2. 豚

豚のと畜頭数は、23年度全体では 133,969頭で前年比 6,039頭(4.7%)の増となった。

出荷地別では、佐賀県が53,740頭(構成比40.0%)、次いで大分県が 25,948頭(同19.4%)、山口県 25,400頭(同19.0%)、地元の福岡県が16,014頭(同12.0%)、熊本県 8,518頭(同6.4%)、鹿児島県 2,771頭(同2.1%)、宮崎県 1,378頭(同1.0%)、長崎県 200頭(同0.1%)の順である。

Ⅱ 取扱状況

大動物(成牛)、小動物(豚、子牛)の枝肉の頭数は154,758頭で前年度に比べて8,250頭(5.6%)の増、重量は国産部分肉、副生物を含めて 21,196トンで 1,567トン(8.0%)の増、金額は15,303百万円で1,491百万円(10.8%)の増であった。

1. 成牛枝肉

成牛枝肉は 20,451頭で、前年度比1,846頭(9.9%)の増、重量は、8,158トンで 915トン(12.6%)の増、金額は10,114百万円で 1,238百万円(14.0%)の増となった。

2. 豚枝肉

豚枝肉は 134,281頭で、前年度比6,410頭(5.0%)の増、重量は、10,272トンで580トン(6.0%)の増、金額は4,536百万円で 236百万円(5.5%)の増となった。

3. 国産部分肉

(1) 牛 重量は 51トンで、7トン(17.8%)の増、金額は 115百万円で、10百万円(9.6%)の増となった。

(2) 豚 重量は 0.3トン、金額は0.1百万円となった。なお前年度は取り扱っていない。

4. 輸入部分肉

牛、豚、鶏いずれも21年度以降取り扱っていない。

5. 副生物

副生物の重量は 2,711トンで、65トン(2.4%)の増、金額は 537百万円で、5百万円(1.0%)の増となった。

Ⅲ 平均卸売価格

1. 牛枝肉

成牛全体では、1,240円で前年度比 15円(1.2%)高であった。

和牛は 1,385円で前年度比 16円(1.2%)高、交雑種は 1,087円で 同額(0.0%)、乳牛は 481円で 12円(2.6%)高であった。

2. 豚枝肉

豚枝肉は440円で前年度比 2円(0.5%)安であった。

3. 国産部分肉

牛肉は平均 2,233円で前年度比 168円(7.0%)安であった。

豚肉は平均 489円で、前年度は取り扱っていない。

4. 輸入部分肉

牛、豚、鶏いずれも21年度以降取り扱っていない。

主 な 記 録

平成23年度

7 月 14 日 全国中央卸売市場協会第48回食肉部会(京都市)

9 月 5 日 第39回西日本地区肉用牛交雑種共進会

11 月 5 日 福岡食肉市場 九州産ブランド 食肉フェスタ2011

11 月 17 日 平成23年度全国食肉市場長連絡協議会(横浜市)

12 月 8 日 第40回西日本地区豚枝肉共進会

12 月 12 日 第43回九州産肉牛枝肉共進会